

5F-594 JP

整理番号 98T194P010 発送番号 280877

発送日 平成14年 9月10日 1 / 2  
mailing date = September 10, 2002



拒絶理由通知書

特許出願の番号 平成10年 特許願 第152835号  
起案日 平成14年 8月19日 Issued on August 19, 2002  
特許庁審査官 山田 泰之 8720 4V00  
特許出願人代理人 鈴木 俊一郎 様  
適用条文 第29条の2

RECEIVED  
OCT 03 2002  
TC 1700

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の請求項1～3に係る発明は、その出願の日前の特許出願であって、その出願後に出願公告（特許掲載公報の発行）又は出願公開がされた下記の特許出願の願書に最初に添付された明細書又は図面に記載された発明と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許出願に係る上記の発明をした者と同じではなく、またこの出願の時に於いて、その出願人が上記特許出願の出願人と同一でもないもので、特許法第29条の2の規定により、特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

下記引用文献等一覧に記載の先願1及び2の出願当初の明細書には、10～100μmの高さの突起状物を有するウエハの表面に粘着フィルムを貼付して、ウエハ裏面加工時の窪み発生や破損を防止することが記載されている。

そして、これら明細書には、本願発明における動的粘弾性の $\tan \delta$ や、基材の厚みとヤング率との積について記載されていないが、これら明細書に記載の先願発明1及び2は本願発明と目的や効果の点において差異はなく、また、ウエハ裏面加工時の窪み発生や破損を防止できることからみて、本願発明中の動的粘弾性の $\tan \delta$ や、基材の厚みとヤング率との積と同程度の値を有していると解されるから、先願発明1及び2は本願発明と同一の発明である。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引 用 文 献 等 一 覧

- この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。